

眠っていた学び舎に、再び快音が響いて半年

四谷学院 第一期生を追う

旧下館北中学校の跡地に、令和7年度開校した四谷学院高等学校（以下「四谷学院」）。本校野球部は全国各地から集まった15人が甲子園優勝を目指して日々の練習と学業の両立に励んでいます。今回は学校の跡地を活用し、夢を追う四谷学院野球部取材しました。

【問】広報広聴戦略課（本庁4階）

☎ 24・2172

筑西市から甲子園への挑戦

「甲子園優勝という同じ目標を持った人が集まったチームであることが私たちの強みです」と語るのは、四谷学院野球部の谷内璃空キャプテン。部員15人全員が全国各地から筑西市へ転入し、寮生活を送りながら甲子園優勝を目指して努力を続けています。親元を離れて生活をする中で、心境の変化があったそうで「親に任せていたことを全て自分で行うことで、自立することを学んでいます。寮生活をとおして、両親への感謝の気持ちにより強くなりました」と日々の成長を教えてくださいました。

転入して感じる地域性

谷内さんに、筑西市に転入してきた感想を聞くと「地域の人が、声援を送っ



▲インタビューに答える
谷内キャプテン

てくれたり、応援してくれたり、みなさんの温かさを感じます」と答えてくれました。この半年間で地域の中に溶け込んでいることを実感しているそうです。地元の人が練習の見学に来ることも多く、声援を受けることで練習にも一層力が入ると言います。

伝統を作るのは自分たち

生徒たちを競技、生活の両面でサポートするのは、寮生活を共にし家族のような存在の本村幸雄監督。

「一期生には先輩がいまません。これからの四谷学院の風土を作っていく一期生には自分たちで考

える教育やミーティングの時間を大切にさせています」と生徒たち主体の指導方針を話します。「大事なお子さんを預かっているの、生徒たちの夢をかなえてあげたいんです」

▶選手を見守る本村監督



という力強い言葉に、温かさに満ちた思いを感じました。
本村監督が指導をする上で特に大切に行っているのは「生活」。野球も大切ですが、生活をおろそかにすることのないように「心・技・体・生活」を調和させ、成長を図ります。
生徒たちは監督の深い愛情のもと、野球だけでなく、精神面も高みを目指しています。

目標に向かって進むチーム

かつて地域の学び舎であった場所は、一つの目標のもとに全国から集まったチームの夢舞台へと生まれ変わりました。「入学時よりも今の方がやりがいを感じます。同じ目標を持った仲間とだからこそモチベーションが上がるんです」と語る谷内さんからは、ゼロからチーム一丸となって奮闘する一期生の絆の強さを感じます。

筑西市を舞台に、甲子園優勝という大きな目標に向かって羽ばたく背中から目が離せません。

主な大会の記録

- 第108回全国高等学校野球選手権茨城大会
2回戦進出
- 第79回秋季関東地区高等学校野球茨城県大会一次予選代表決定戦突破
- 第79回秋季関東地区高等学校野球茨城県大会二次予選代表決定戦突破

